

研究・調査報告書

報告書番号	担当
393	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) SAM survey on "drugs and fatal accidents": search of substances consumed and comparison between drivers involved under the influence of alcohol or cannabis. 「薬物と死亡事故」に関する SAM 調査： アルコール使用および大麻使用の運転者の比較	
執筆者 Biecheler MB, Peytavin JF; Sam Group, Facy F, Martineau H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Traffic Inj Prev. 2008 Mar;9(1):11-21.	
キーワード 事故 (死亡)、運転者、試験、不法薬物、アルコール、大麻、責任、有病率	
要 旨 目的： この調査は、フランスにおける自動車死亡事故におけるアルコールおよび大麻の影響に関する疫学調査である。本論文ではアルコールのみ使用、大麻のみ使用、両方使用の間での比較を行う。	
方法： フランスにおける 2001-2003 年の死亡事故を起こした全ドライバーに薬物 (大麻、コカイン、ヘロイン、アンフェタミン) に関する尿検査および血液検査を行った。この結果を警察によるアルコール検査結果のデータと結合した。10000 件の事故から 17000 人のドライバーの結果を分析した。事故を起こしたドライバーの責任レベルも調べた。解析は代表する約 11000 人で行った。	
結果： 全ドライバーのうちの 21% で違法なレベルのアルコール濃度 (血中 0.5g/L 以上) が認められた。違法薬物の中では大麻が最も多く、6.8% で認められ (THC 1ng/mL 以上)、特に 25 歳未満で高かった。大麻が検出されたドライバーの 40% では、同時にアルコールレベルも違法であった。他の薬物は比較的まれであった。ドライバーの責任レベルは、全集団の 1.7 から、大麻のみの検出者で 2.3、アルコールのみの検出者で 9.4、両方の検出者で 14.1 と上昇した。	
結論： 死亡事故を起こしたドライバーの多く (26%) でアルコールまたは他の薬物が検出され、交通安全上大きな問題である。アルコールは依然としてどの年齢でも主要な要因であった。アルコールと大麻を使用する若いドライバーで特に対策が必要である。	